【翻訳】ゲオルク・クリストフ・リヒテンベルク
ホガース銅版画の詳細な解説 第三分冊 4. と第四分冊 1. ――リーペンハウゼンによる完全な複製
ゲッティンゲン, Joh. Chr. ディーテリヒ出版社
1795年, 1798年――

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉用, 宣二 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/24935

【翻　訳】

ゲオルク・クリストフ・リヒテンベルク
ホガース銅版画の詳細な解説
第三分冊　4. と第四分冊　1.

リーペンハウゼンによる完全な複製

ゲッティンゲン，Joh. Chr. ディーテリヒ出版社　1795 年，1798 年

吉　用　宣　二　訳

[「放蕩者の成り行き」の「第八の版画」から継続]

死者たちの本来的な墓地においてはただ夜に許されていることがここに埋葬されているひとにはある状況の下で許されている，しかしただ昼に，すなわち，彼らの墓から出てきて，幽霊としてうろつきまわってもよい自由が。彼らはそれをしかしとても邪悪にしてはいけない。さもないと，彼らは，すでに述べられたように，鎖につながれる。幽霊たちが，彼らが言うことを聞かなければ，袋に入れられライン川に運ばれるように。この昼の幽霊たちについてホガースはここで，二人のお嬢さんたちを計算に入れないで，ただ六人を与えている。そのような霊視能力者，素描家にとってそれは本当にとてもわずかである。彼が他の作品の中で十分にその不足を補わなかったならば，そして *in partibus 不信心な人たちの国の中で多*くのベドラム人たちを　－　あるいはここに自分の立場を助任司祭［Vikarius］によって果たさせているベドラムの人を　－　描かなかったならば，彼はほとんど許されないだろう。左への階段に何かが，三人組が，ほとんど*信仰，愛と希望*のように見える何かがベドラムの中を幽霊としてうろついている。それらは互いに緊密な関係にあるように見える。しかしこれらの頭はそのような三角形を形成している三つの恒星よりももっと互いから離れている。すべてはただ見せかけだけのものだ。各々がそれ自体の世界である，どの世界も他の世界をあかりで照らさない，またどの世界も他の世界を暗くしない。どの世界も固有の光を持っている。頭が世界を作るということを知らない人，世界が頭を作るのではないということを知らない人は，ここを見よ。善なる天よ！　人間とは何か，あるいは本来，世界とは何か。－　しかし君は君が精神病院の中にいることを知っているかとある男が彼が改宗させようとした一人の半狂乱の男に興奮して叫んだ，それに対してこの男はとても平静に見，そして尋

ねた，「しかし君は，*君が*精神病院の中にいないということを確信しているのか」。その見知らぬ男は考えそして沈黙した。半狂乱の男もまた沈黙した。しかしおそらく以前に長い間考えていたのだ。この男がその後でしたことは知られていない。しかしその見知らぬ男は，彼が精神病院から世界の中に出たときに，二つの世界の間に，一本の鋭い境界の代わりに，中立的な国の線を仮定し，彼の生涯を通して本来はただ中立性 - 国のためにふさわしい哲学に対して用心したそうだ。

三重の十字架と一重の王冠（そのようにホガースは表現する，彼が「三重の王冠［教皇の三重冠 Tiara］と一重の十字架をもった」と言おうとするとき）をもった*信仰*は，彼の朝課を彼の［牛の］メェーと鳴く口でもって歌う。それの一つの音節も隣の体系の上では聞かれないのだが。頭の上に楽譜本をもった希望はヴァイオリンを弾き続けている。胸の前に小さな本の重いテーマをもってメランコリックな愛は悲歌［Lamento］を夢見つづけている。後者に対して犬が，ふだんであれは家の守護聖人に対してのように，月に向かって吠えている［lunatics : 月によって打たれた人，狂人］，そして愛はそれを月と同様にほとんど聞かない。狂気が王冠としてかぶっているわらの王冠［オフィーリアの付属物］はここでは首の周りの綱としてある，ひょっとしたら，ついに愛に王冠を授ける最初の詩的な試みとして。そのような錠前を持った口はもう容易には話さない，一方で折りたたまれた手は今日でも大切な名を，ここで階段手すりとして仕えるために森から下りてきた木の中に刻んだ。*Charming Betty Careless*，「*魅力的なリースちゃん－軽率*」。それはもちろん悲しい！　しかしいったい，そのような口が，そのような額が，そしてそのような眼のくぼんでいることへの素質がどうして軽率★のところに来たのか，そして老いた羊飼いがそのような愛★★のところに来たのか。ヴァイオリン奏者の思い付き，楽譜の本を頭の上に斜めに置くということ　－　それによって彼は同時に音楽 - 斜面机の外観を手に入れるのだ　－　それはベドラムの衣装の中にある，そして確かにこの場所の独自の産物である。それに対して指の多くの指輪はベドラムが他の世界と共有している流行に属している，そして固有のものではない。

★ ホガースはこの意味深長な頭と向かい側の No54 の頭への考えを素晴らしい立像から取ってきたと，言われる。ベドラムの中庭に導く表玄関の上にある立像から。それらはドイツ人彫刻家，Cajus Gabriel Kyber［Ciber 1630 - 1700］，有名な詩人 *Colley Cibber*［1671 - 1757］の父によって作られた。ポープの「愚人列伝」［Dunciade　同時代の気に入らない詩人，評論家を風刺した］にこの作家は彼の名前を残念ながら！大部分感謝しなければならないのだが，ポープはだからそれゆえに（*Dunc.* Book I v.32）偉大な Ciber のこの立像を低能の兄弟たち（*brainless brothers*）と呼んでいる。

★★ *Betty Careless* という名前は創作されたのではない。当時ロンドンでこの名前の大きな美しさを持った有名な*ふしだらな女*が存在していた。フィールディングは Amelia の中で彼女について語っている。

No54 と No55 の間の壁ではとても百科事典的に見える，少なくもこれらの独房の中よりはずっと多く。一つの三本マストの船，一つの四分の一の月，アメリカの円形がまだ詳しく知られていない地球の投影図法，他の円形の大部分，しかし鎖につながれた Britannia，本来はイギリスの半ペニー銅貨によって覆われた他の円形の大部分。このすべての投影図の上を越えて投射される爆弾。下に［羅針盤の］羅牌のようなものと上に幾何学的なダッシュ記号［－］のようなもの。このすべて　－　われわれが聞くことになるように，有名ないたずら者［ホガースのこと］が二十八年後にそこにインクを注いだ［klexen］メダルを除いて　－　は，実際に思想家の作品であるように見える。手に石炭をもってダッシュ記号の一つを，それがそのまま続くならば，No.55 のドアまで延長することに従事している思想家の。ちょうど彼の鼻の前に *Longitude*（経度 Meeres-Länge）［イギリス議会は 1714 年に Meereslänge を見出す最善の方法のために賞金を出した。その言葉は流行語となった］という言葉がある。これは本来は，別の種類の charming Betty の名前である，彼女の不幸な愛人たちは残念ながら！この日までベドラムの壁際を幽霊のようにうろつきまわっているのだ。その善良な女は彼女の求婚者たちから財産も美も身分も要求しなかった。家系については足の寸法と同様にほとんど話題になっていない。そして若さについては一番話題になっていない。彼女と彼女のお金を所有するために，彼女はただ一つの謎を解くことを要求した。　－　その事柄は信じられないようなセンセーションを巻き起こした，そしてその成功は多くの人にとって世界で最も悲しい成功であった。その婦人を所有しようと試みた幾人かの人たちは彼らの試みでもってまだかなり幸福だった。ただお金に求婚した人はただ漠然と推測しただけで，綱と線［Stricke und Striche］，計算と打撃［Streiche］の中に巻き込まれた。それを彼らはもう自分で理解できなかった，そして彼らの生をベドラムで終えるのは稀ではなかった。われわれの男がここでしている線を引くこと［Striche］はこの種のものである，そして彼が投げさせる爆弾はすべてこの *Charming-Longitude*★の獲得に向かう。さらに彼の後ろの老いた男，丸められた天球図を通して見ているその老人は空の方を見ているのではなく，この美しい女の方を見ている，そして砲手［Bombardeur］の恋敵である。彼のすぐ前に頭の上に見本図を載せた仕立屋が座っている，ヴァイオリン奏者が楽譜帖を持つように。彼は二人の経度探究者 *Längensucher* のうぬぼれた努力について笑いではじけそうだ。時々彼の嘲笑は巻書をもった老人に向かう。馬鹿者め Hans Narre，と彼は言いたいように見える，見よ，お前は*経度*を測ろうとするならば，紙を切り，保たねばならない，そうして私は自分の *Longitude* を見出すのだ。そして私の経度に対してお前の経度は子供遊びに過ぎない。その男は完全に間違っているわけではない。というのは，経度を見出そうとするその老人の仕方は地理学にとっては仕立て術にとってと同じくらい役に立たないからだ。　－　一人の愚か者が他の愚か者に

ついて笑うということは，もちろん十分ばかげている。しかし精神病院の中あるいは外においても異常ではない。しかしここではもっと多くのものがひそんでいる。実際に当時ベドラムに一人の仕立て屋が入れられていたそうだ，彼は創造の傑作［人間のこと］のために，美しい魂の美しい形に適合するように，美しい形に適合している衣服を作ること，それは理性的な人間のもっとも重要な仕事であるばかりか，なかんずく Sir Isaac Newton の金にならない芸術よりもはるかにもっと難しいと信じていた。［美しい魂の理想は 18 世紀に，敬虔主義と感傷主義との関連で発展した魂文化にとって特徴的である。ゲーテのヴィルヘルム・マイスターの徒弟時代の美しい魂の告白］　そのためにその哀れな奴はここに入れられているのだ。その罰は過酷である，とりわけ仕立て屋にとっては。仕立て屋は，彼が人々を*作る*［〈衣服が人を作る〉の意味から］ことのために*温和な地帯 Zona temperata* においては少なくとも人々によって，すべての機会に，*熱い地帯 Zona torrida* の仕立て屋のいない不道徳な野蛮人の気分でもって刺し縫われる［besticheln］のだ。壁のメダルは，すでに述べたように，あるイギリスの半ステューバー［オランダの少額貨幣］（*Halfpenny*）の裏面である。それは前にいくらか散らばった髪をして座っている Britannia を表している。下には 1763 年の年号が記されている。いくらか正確に見ると，メダルから下に，右に No54 の方に移動する一つの鎖が見える。上にはその鎖のためにもっと多くの場所があっただろう。しかし*上に*鎖を持った一つのメダルはその鎖に*ぶら下がる*だろう，そしてイギリスでは*ぶら下がる*と*鎖*という言葉はメダルについて使用されると，容易に*勲章*や子供たちの国［Kinderstaat］よりももっと重要なものを思い出させるのだ。ホガースはだから言おうとした，1763 年に Britannia はベドラムで鎖につながれて横たわっていた，あるいは横たわるに値したと。当時の栄光に満ちた平和［Hubertusburg あるいはパリの 1763 年の平和，七年戦争を終えさせ，イギリスにカナダを所有させた］は幾人かにとってあまりに平和的であるように見えた，その平和はもっと敵意のあるものでなければならなかっただろう，そうしてそれはもっと栄光に満ちていただろうと彼らは主張した。Britannia は彼女の事柄をもっとよくすることができただろう，とある人は言った。彼女はもっと賢くあるべきだったと別の人は言った。彼女は精神病院に入るにふさわしいと*ホガース*は言う。*ここに証拠あり Ecce signum*。そこには中傷がある，全世界が理解する言語の中に，全世界が買う版画［Blatt］の中に。犯罪をもっと多く増加させるもの，著者をさらし台に［zum Block］に送ることはないにしても，著者に生涯の牢獄 - 居住者［Basillen-Sassen］の資格を与えるもの，それは青春の思い付きではない。彼の死の一年前に［ホガースは 1764 年に死んだ］，彼の生の 65 番目の年に，彼が法とは何であるかを本当に知ることができたであろうときに，この版画が二十八年間存在した後で，彼はここに Britannia のために一つの小さな場所を作り上げた。それ以上に彼は公表した（*adver-*

tised)，彼は彼女を 1763 年になってここに持ってきたと。その版画は 1735 年のものだと。これによってそのいたずら小僧はその上，彼は，後世の一人の新しい預言者の尊い名前を，今の世界の祖国冒涜者の名前よりももっと多く恐れたということをほのめかしているように見える。それはとても嫌なことである。　－　しかしわれわれは正しく見ているか。そのような場合には経験が役に立つことができる。その賢い Britannia は，それを知ったとき何をしたか。彼女は，正当にすべてのそれほど*賢く*はないしそれほど*経験がある*わけではない *Patria*［母国］にとって規則であるところのものをした。　－　*この賢い善良な母は愛する子供の思い付きについて微笑んだ，その子供の心を彼女は知っていた，そして許した。*だから心と知り合うすべを知ること，心に値するすべを知ること，それはおそらくこの事柄であろう。機知はひとつの綿毛★★である。

★ 爆弾はここで本来は経度［Meeres-Länge］の発見のためにこの種の試みを提案した William Whiston［1667－1752］を狙っている。

★★ Wit's a feather and　－　Pope

この版画からは風刺的な画家にとって何かが学ばれる。銅版画を時代の挿入物によって適合させる考えは，素晴らしい，そして模倣に値する。一方ですでにわれわれの民族 - 銅版画の中にはこの方法の痕跡が見出される，例えば Gänsespiel［サイコロでの盤上ゲーム］の中に，そこでは 1756 年のそれは 1796 年のそれとはまったく似ていいない。われわれは別の関税，別の居酒屋と別のガチョウ［Gans］を持っている。　－　おお，良いホガースよ，あなたがあなたの世紀の最後の十年間を見ることができたならば，壁も，ここの天井でさえも空っぽではなかっただろう。　－　一人の王女，Europa，1792 年に *mense* Fervidor［フランス革命暦の熱月］に，二度目に*雄牛*と一緒に通り抜けようとしていた彼女［エウロペは雄牛に姿を変えたゼウスに誘拐された］，それは No55 と No56 の間の個所にとって何という対象であることか。そして覆うもの［Deckensstück］のために *Brothers*★［Richard Brothers 1757－1824　宗教的熱狂者，自分をダヴィデの子孫とみなし，1795 年にヘブライの王として啓示されると信じた。1795 年から 1906 年まで精神病院に入れられた］。彼は彼の *Brethren*［聖職者的な言語の使い方での兄弟たち］と一緒に可視的な闇の雲の上にひざまずき，災いと千年の［ユダヤ教の］*安息日*［Schabbes］を予言している。

★ われわれの読者のたいていの人たちに，Neufundland ニューガンドランド［カナダ東端の州］Placentia 生まれのこの予言者，私が知っている限り今は精神病院の中に生活している彼は，新聞から知られているだろう。Nathanael Halhed 氏［1751-1830　イギリスの東洋学者］，今の国会の議員はある特別な書の中で彼に賛成の態度を表明した，そして自分も千年王国が 1795 年 11 月 19 日に日の出とともにエルサレムでその始まりを取るだろうと予言した。これが本当に起こったのかどうか，それに

ついては新聞には何も書かれていない。

H.S という文字を持った階段のわきの支柱の上の小さな礼拝堂の意味を私は理解しない，No55 の隣の壁の LE［狂気になった Nathanael Lee］も同様に理解しない。この音節をイギリス人はおそらく *Li* と発音するだろう，そしてこれは Lee，不幸な召使を思い出させるだろう，彼は周知のごとくしばらくの間この独房に住んでいた。これらの文字はまた他の解説を耐える。私はあえて解説をしないが。*自由に歩きまわる*哲学者たちの作品の中の暗い箇所を説明しなければならないことは，すでにまったく心地よいというのではない，そして鎖につながれている人たちの作品［*Operibus*］のもとではその事柄は二倍も不快になる，それを通して道を見出す幸福な巧みさが解説者に与えるだろうとても二義的な信用［Kredit］の故に。–

だからこれ以上一言もなし。私がこの分冊と先行する分冊のいくつかの版画に戻ることがあるかもしれない。それどころか，私はいくつかに*戻らねばならないだろう*。しかしこの*第八の版画*，それに私は生涯を通じて決して戻ることはない。私はそれを否定できないし，否定しようと思わない。それは私には不快になった。[「ホガースのベドラムの仕事をした，それはうまく行こうとしない」と 1796 年 4 月 2 日の日記］　この章の終わりでの私の感情を私は描写しがたい快感以外の何とも比較することができない，私が 1775 年 10 月にこれらの墓場への短い訪問の後［リヒテンベルクはベドラムを訪問した］で再び Moorfield★の自由な空気の中に出て来たときに，私の最初の自由な呼吸の流れ［Odemzug］に付き添っていたあの快感。

★ ベドラムがあるロンドンの地区。

ホガース銅版画の詳細な解説　第四分冊（1798 年）　1.

われわれの時代は一番初めに結婚の絆と家と種族（genus）を罪で豊かに汚した。
この源泉から災いの流れがローマ人の国と民の上に流れてきた。［ラテン語］ホラティウス　頌詩　第三巻 6 頌詩。

前置き

このホガース銅版画解説の*第四*部が出版社が供給を約束していたよりも遅れて現れるとい

うことは，ただ私の好ましからぬ健康状態に帰せられるものである，この健康状態によって私は真ん中で中断し，仕事を半年もほっておくことを強いられた。あの約束にもかかわらず人々がほとんどなくて寂しいと思わなかったであろう，それ自体取るに足らない書物の版の遅れについてこのように公的に説明することを*現在の場合において*，この延期を残念ながら（!）あまりに顕著にした状況が私に強いているのだ。これは復活祭見本市での*注釈なし*の銅版画の配布だった。当時はまだ注釈をすぐに追加として引き渡すことができる希望があった，その希望はしかし後に完全に無に帰せられた。これが出版者にあらゆる種類の非難を招いたので，さまざまな場所で描写は過失から遅れたとか転送が忘れられたなどと思われたので，私は，あの心優く支えてくれた人たちにここで，出版者は完全に無実であると説明することを私の責任であるとみなしたのだ。

しかし銅版画と注釈のこの分離が別の結果を持たなかったならば，そして注釈に対する読者の期待を今この出版の際に満たされないままにとどまっている度合いまで緊張させたならば。銅版画の性質と同様に銅版画の解説が最後に完成された状況はこれをちなみに恐れさせる。もっと高い程度の作用の際にその企てを完全に中断できた一つの病気が，もっと低い程度でこの企ての継続をそれが可能になるとすぐに，少なくとも時には著しく刺激したとしても，それは驚くべきことではないだろう。これが事情であったならば，私は読者にそのような個所における私の確かにまったく一様な良い意志を親切に行為とみなすようにお願いする。

ゲッティンゲン，1798 年一月

当世風の結婚　MARRIAGE À LA MODE

第一の版画

われわれの偉大な芸術家はしばしば非難をされた，「彼はただ人間生活の片隅場面だけを表現できる。彼の天才，もし彼がそれを所有しているならば，それは常にただ社会のその他大勢［Troß］の中に生きており，ならず者世界の汚れの中に自分の好きなように［à son aise］いるのだ」。これは最後に彼の誇りを成長させた。勇気をもって彼はいわゆるもっと高い地域の中に昇って行った，それから彼が空の中に見たものを描いた。それをわれわれに次の六枚の版画の中で与えた。この絵画的な旅［Voyage pittoresque］はまったく全員一致の喝采を獲得した。それどころかより高い世界自身が，そう言われるように，ひょっとしたら愛国心から，まったくいやいやながらというわけではなく，自分が*あれか，これか*［aut,

aut］の間に［「シーザーかあるいは無か」，Cesare Borgia のモットー］挟み込まれているのを見出したそうだ。ホガースが*あなた方そこの上の人たち*［Ihr dort Oben］に熟達していることを認めなければならないか，あるいは賞賛された*そこの上* Dortoben［John Gay の「乞食オペラ」1725 年から。「下流世界と社会的な上層の道徳的な同一性」］が飾り立てられた*そこの下* Dortunten に他ならない，全体として一種のならず者世界に他ならないということを認めなければならないか。このジレンマが*一番前の*角のところでつかまれたということはおのずと明らかである。この*選択*によってだからホガースの天才は正当化された，その際の当惑によって彼の天才は報復された［gerochen］。

彼は彼の描写を当世風の結婚 Marriage ā la Mode と名付けた。これらの言葉の最初の言葉はイギリスに帰化していて，だから英語である。後の言葉はまだ目下のところ（その場面は1745 年である）フランス語である，だからその表題は半分英語で半分フランス語である，彼がここで描いているあのより高い世界の地方の慣習のように。そこでは普通の男は*彼の父たちの慣習*に従って結婚する，それに従って牛肉を食べ，それに従って主の祈りを唱える。それに対して身分の高い男は彼の*当世風の結婚*と同様に*当世風の牛肉*や*当世風の宗教*を持っているのもまれではない。　－　これらの版画の道徳的な傾向は卓越している，司法は考えられるもっとも厳格なものである。悪行深い人はすべて不自然な死を遂げる。この司法が政治的なものであることはひどく残念だ！　－　しかし自然もまた詩人に対して感謝するようになることを始めないだろうか。すでに五千五百年以上にわたり彼らは Charles Batteux［1713－1780　フランスの批評家」が素晴らしく示したように，*美しい自然*を模倣している。私は本当に考えるだろう，それは正当である，自然は最後に考え，そしてまた*美しいポエジー*を模倣するだろうと。

ホガースがどんなに正しく見たか，そしてどんなに真実のように描いたか，それは以下のことからわかる。これらの版画が現れたときに，キリスト教的な愛が，それ［キリスト教的な愛］がこれらの版画が誰を指し示しているのか判断するのに，少ながらず当惑している自分を見出したということから。それらは，いくらか条件つきで，X 卿と同様に Y や Z 卿にも適合していた，すでに物語として，そして半分のアルファベット［印刷業において当時使用されていた，全紙 Bogen の名称。（アルファベットの大文字によって）］へのほとんど予言として。伝説が流布しているように，W 卿のことを主に述べていたそうであるホガースはだから実際にあの熱狂者の事情の中にいた，講演の熱の中で説教書を彼の教区の一人の姦通者に投げようとしたが，身構える際にアルファベット文字の半分［一ダース］の人々が身を隠くしたことを見て驚いた熱狂者の。

第一の版画の中に，豊かに重々しく家具が置かれた部屋の中に，銀の板金を張られたテー

ブルに二人の立派な男たちが向かい合って座っているのが見える，一人はいくらか老いていて，いくらか痛風にかかっている，もう一人はまだ壮健である，少なくとも健康である。前者は*Sir　高位伯爵閣下 Squanderfield 伯爵*★，公的に保証された血統の男，重く確定された名誉の男である，もう一人はただのお金と信用の高貴な［Wohledler］商人である。市参事会員，そして彼の金の鎖から推測すると，古都ロンドン（the city）の現在の［zeitig］保安官 Scheriff［伯爵領の最高執行官，特に法的な指令や判決の執行に権限を持つ］，だからそれゆえに*今のために良い生まれの人 Wohlgeb. pro nunc*。彼らは二人とも契約を結ぶ，あるいは結ばれた契約を執行することに従事している，そのためのきっかけと相互の条件は次のようである。伯爵閣下 Se. Hochgräfig. Gnaden は人々がそのようなものをほとんど見ることがない存在である，まさにあなたが*痛風にかかって*［*gichtbrüchig*］いるのと同じように*破産*［*bankbrüchig*］している。閣下［Dero］の金銭上の財産はその肉体的な財産よりももっとわずかである。それに対して良い生まれの紳士は彼がお金持ちであるのと同じように位階中毒である。しかし彼の家族の静脈や動 p の中でみすぼらしく市民的に見える，彼の金庫の中では王侯的に見えるように。前者はだから空っぽの古い貴族の財布のために市民的なお金を探している，後者は市民的な血管のために古い貴族の血を探している。今双方の欲求が緊急のものであるので，その事柄はすぐに成立する，とりわけ次の道で。すなわち，伯爵氏は小売商家族に貴重な血の一部を与える，長男の人物において同時に高い生まれの子爵 Squanderfield 卿の人物においいて。その代わりにこの家族は伯爵氏に金庫を開ける，そして娘，途方もない財産の唯一の女相続人をゆだねる。上記の子爵 Squanderfield 卿が貴族接ぎ木を合法的に上記の市民の娘と一緒に*増やし，執行し，遂行す*べしとの条件のもとで。このすべてはここに与えられ，確定される。押印［確定］のために机の上にろうそくが燃えている。幾人かの人はそのろうそくの上に*ろうそくの芯のこぶ Dieb*［一本のろうそくにおいてはがされた糸は副次的な芯として燃える，そうして獣脂あるいは蝋は流れ去る，それは Dieb〈泥棒〉と言われる］に気づいたと主張している，それはこの夫婦財産契約にとって悪い印だろう。どんな事情にせよ，そのろうそくが溶けている［laufen］ことは確かである，そしてすべての溶けるもの［läufisch］はこの場合また多く役に立たない。

★ squander［浪費する］ vertun［浪費する］verprassen「浪費する」そして field Feld,「不動産」から合成された。

銀の小さなテーブルのところの人々はもっと近い照明に値する。*そこに*座っているような市参事会員はまったく緊張し，用心深く，熱心である。彼の足は彼が座っていることを少しも気づいていないように見える。脛骨は，跳躍のときのように，いくらか過度に垂直である，

二本の足は平行している。一組の粗い株式市場 Börsen-靴底［頑丈な］をもって，靴は堅固に［firm］安定している。彼の信用のように。卿の足も安定している，残念ながら！ 残念ながら！ 彼の信用のように。右の男は，なるほどまだ墓の中にではないが，粗布をまとい灰をかぶって［マタイ］深く曲げられている，そして左の男はみすぼらしく彼の病院の格子を通して眺めている。これにまだ外見［Ansehen］を与えているものは苦しんでいる兄弟との対比にすぎない。

市参事会員は結婚財産契約の銘文をある注意深さで読んでいるが，それの内容を卿はほとんど評価しなかった，この種の緊張した読み方は本に関して［an］学ばれないし，本から［aus］学ばれない，そうではなくただ偉大な考えの享受の際に　－　手形証書の中で。ひょっとしたらまたこの緊張の中には単なる慎重さ以上のものがある。それは少なくとも可能だろう。イギリスの能書家の素晴らしいドイツ文字［Frakturschrift］を考えてみよ。そしてこの素晴らしい文字で書かれた黄金の言葉を考えよ。すなわち，The Right Honble［Right Honourable 尊敬すべき。イギリスの名誉称号，由緒ある貴族の一員の名前の前に置かれる Right Hon.〈閣下〉は侯爵〈Marques〉，Earl，Viscount，Baron に相応する］を考えよ。*Lord Viscount*［*子爵*，伯爵の嗣子］を，そしてこの *Viscount* の中に将来の娘婿を，そして娘婿の中に将来の伯爵を，そして伯爵の中に世界の果てまで及ぶすべての権利と華麗さを持った必然の成り行きの上院議員を。本当にそのような喜びが傲慢な市参事会員の視線を緊張させることができなければ，いったいそれを何か緊張させることができるだろうか。彼はおそらくそのすべてをしばしば十分に考えた，しかしそのような外交的な華麗さでもって，そのような道徳的に消し難い文字で書かれたものを彼はここで初めて見るのである。

彼の隣に，腕の下に帽子をもって，彼の老いた，忠実な，六十年の売り台［Comtoir］奉仕の中で干上がった会計係が立っている。彼は小冊子［Traktat］を完成させ，彼の主人の名において老伯爵に，本来はこの家の中で*市参事会員の娘*と呼ばれているものを手渡す。彼は結婚式の準備を行う。本当に多くの哲学がそれには属している，密かな動きもなくテーブルの上に，この結婚式が何に基づいて起こるのかを見ることは。意義深いセロの列と真珠の紐でもって縁飾りを付けられて，銀行紙幣がそこのギニー金貨の山の上にある。そして似たような刺繍がそれらに続く。しかしこれは，そのような機会における目に見える刺激のように，ただ副次的な事柄である。自分の前にその老人は，その中にどれくらい多くがあるのか見ることができないのですでにもっと多く敬意に値する財布があるのを見ている。しかしながらこの引き渡し全体の際に最も秘密のもの，そしてそれ故にまたおそらくもっとも重要なものは，おそらく *Mortgage*［*抵当証書*］という表題を持った文書である。私はこのことを，会計係自身が善良な好奇心をもってそのようなわれわれの目の前に隠された祝福が伯爵に及ぼす

であろう印象を観察したがっているように見えることから推測する。というのは，それは本当に市参事会員自身によって返却された債務証書，あるいは買い戻された債務証書である。それによって伯爵家の財産の一部が今まで捕虜にされていたのだ。「ここに閣下，あなたの財産を取り戻してください」と老人は言う。　－　その贈り物は強力である。そしてそれを贈る仕方の中にはまったく商人的に見えない何かがある。これはまた貴族の側でもとても深く感じられる，そしてそれ故に時間を失うことなく直ちに自分の嫁入り持参金に手が伸ばされるのだ，それの華麗さによって市民－ならず者をすぐに再び自分の自然な境界に戻るように命じるために。*よし*と伯爵は言う，*それは一人の市民の娘を家の中にもたらす，そしてここに鼓動しているもの*（第五番目のチョッキのボタンを指しながら），*私の血，そしてここ*（家系図を指しながら）*レバノンの杉，私の七十年の貴族の杉，私の高貴な息子は君たち市民の娘を家にもたらす。*　－　あの行為についてのこれらの言葉の途方もない重さを完全に感じるために，人々は東洋的な派手な豪華さを考えなければならない，その豪華さのもとでこれらの言葉が話されたのだが，それについてわれわれは直接的にこのグループに属している限りにおいて引用したい。老伯爵は豪華 - 謁見天蓋の下の近くに座っている，*伯爵の*紋章王冠（*an Earl's coronet*）を盛装かつらのすぐ上ではないが，しかし豪華天蓋の上に載せて。高い黄金の紋章華麗を身につけて，そしていわば自分自身がサポーター［盾形紋章を左右から支える格好をしている一対の動物］，二つの松葉杖を持った豪華紋章となって。それぞれの松葉杖は王冠の印を押されている。今彼はそれを必要としない。彼の支えのための心配を別の端のとても繊細な陳列室王座［Cabinets-Thron］の一つが引き受けた。かつて痛風が盛装の日［Gala-Tage］にその王座についたのだ。一つの椅子は病気の信用足［Kredit-Fuß］を支えているが，その椅子をとても優しい病気［健康な人］でさえも自分のこめかみあるいは額の支えとして引き受けることを恥ずかしく思わないだろう。そしてこの太ももはその奉仕のために同様に黄金の王冠をかぶっているのだ。彼の隣にウィリアム征服王がよろい，盾と剣をもって横たわっている，そして彼の七百歳の木の高潔な実を賛美している，それらの木の実のどれにも一つの王冠の黄金の飾りがぶら下がっている。　－　哀れな市参事会員，君の時間的な株式チャリンチャリンとなる音はこの壮麗さとほとんど千年の*過去の－栄光*［*Vorruhm*］に対して一体なにであろうか。この系譜はまた実際に市参事会員にとってとても慰めになるものではない，少なくとも彼の眼鏡でもって彼はそれに近づいてはいけない。というのは，私が正しく見るならば，その誇らしいノルマン人は彼の剣でもって枝を切り落とした，この枝が非－王冠と結婚した小王冠を持っていたので。うどん粉病［Mildtau］をもった枝分かれしたものは貴族的な識別を持った木にとどまることはできなかった，自分の根をウィリアム征服王の腹の下にまでめぐらした木に。われわれがそこに落ちるのを見る黒い零

［schwarze Nulle］が非貴族的な無を意味しているということはおそらく確かである，その零が商人の娘，伝令係［Laufer］，あるいは近侍を意味しているのかどうかは，ここでは決定されることができない。

市参事会員の後ろにまったくかわいらしい巣の中に二人の*恋人たち，婚約者たち*が座っている　－　*現物で in natura*。彼らが*どのように*そこに座っているかを言うのは容易ではない。彼らが彼らの心を互いに向けていないことは確かである。あるいは心は彼らにあっては他の人間たちの場合とは異なったところにあるに違いなかった。それを比喩によって表現することは，また容易ではない，少なくとも結婚式の歌手の金で買えるような比喩によっては表現できない。例えば，コキジバトとくちばしは考えられない，というのは，誰がいったいそのようにキスをかわすのか。ここでまだひょっとしたらもっとも遠くまで及ぶ比喩は，次のように言うことだろう，つまり花婿は花嫁の隣に座っている，一人の病気の絹のようなウサギ［*Seidenhase*］が敏捷な*女のハリネズミ*の隣りに座っているように。彼は彼の眼の既に消えてしまった光と火をもって，そして耳の下にとても意味深長な*上品*美容絆創膏［*bon-ton* Pflaster］をもって。その彼は超繊細な優美さとともに嗅ぎたばこの一つまみを取る。彼のほとんど気づかれないような微笑みは身体と魂の極度の弛緩の際の無思慮な自己是認の微笑みである。　－　彼をまだ支えているものはわれわれがすぐに少し聞き耳を立てたいと思う，一つの小さなささやきに半分嫉妬深く耳を傾けることである。　－　彼は座っている　－　もちろん元気に　－　しかし何でもって，何の上に彼が座っていようとも，少なくともそれは確かであるが，彼は*悲惨に*座っている。また彼においても足は彼の父親の場合のように信用［Kredit］について語っている。足は座っているときでもつま先立っている，ひょっとしたら，もっと高い地域のどこかで座席とおしりの間の接触点を可能な限り減らすために。彼の顔を彼は鏡に向けている，ただ花嫁が座って*いない側に*，鏡が掛かっているから。鏡自体と彼は何も関係がない。彼がそこに見ることができるすべては彼の豪華袖の少しのやぶにらみだろう。というのは，彼が自分を鏡の中に見ることができるということ，あるいは花嫁に鏡の中で聞き耳を立てることができるということ　－　それをアイルランド氏は信じているのだが　－　それは反射光学的に不可能なことであろう。　－　人がこの壊れやすいマルチパン人形を，そこから彼らが由来していると妄想している鉄のようなノルマン人と比較するならば，それは奇妙な感情を呼び起こす。勇敢な火のような野心的なそしてまったく心が温かくないウィリアムが彼の剣［Hieber］を持ってここにいるならば，高い生まれの人 *Dero Hochgeborene* にとって最も安全な場所は，彼らがもっと良い跳躍足を持っているならば，そこの開いた窓のところだろう。今は花嫁！　善良な Hymenäus［ギリシアの結婚の神，花嫁たいまつ Brautfackel とベールとともに表現される若者］よ，お前は何を計画しているのか，

どうしてそのようなものを考えることが可能だったのか。そちらを見よ！　些細な事を差し引くならば，（もしその二人の人たちが少し調和しているならば，唯一のもの），すなわち，彼らが二人とも，互いを悪魔のように憎みあっているということを差し引くならば，彼らは本当にすべての他の点においてまったくの反対物である。それはひどすぎる。そこでの商売－投機の際に銀の小テーブルのところでくだらぬものや家系図でもって片づけられるものは，まだ聞かれることができる，しかし　－　しかし，ソファーの上の現物の納入は少しも役に立たない。考えてみよ。*彼*はわずかばかり身体の貴族的な残りを持っている，それを彼は火の中から救い出した，ホガースのとても美しい波線に曲げられて。*彼女*，まだ完全な，しかし完全な attitude à dos d'âne★［後期ゴシックのオジーアーチ〈14 世紀以来の S 字形の弦運弓を持った尖塔アーチの一種〉のような姿勢］の中で，そして鋸台の形に折り曲げられて。その形を布地の［stoffen］衣服は覆い隠すことができない。*彼の*腕，なんと優しく支えられていることか，そして手，なんと軽く支えられていることか！　アンティノウス［ハドリアヌス皇帝の寵児であった若者］とアドニス［アフロディテによって愛された美少年］，もし彼らが，鼻をすすろうとすれば，もっと魅力的に鼻をすすろうとすることはできなかっただろう。　－　*彼女の腕は*，平行な角度の中に折り曲げられて，そこにぶら下がっている，麻痺した鉤が，それらがストーブを失ったならば，一つの古い容器にぶら下がっているように。*彼*は小さな缶と嗅ぎたばこで遊んでいる，そしてそれでもって少なくともこの遊び道具の用途の全体の四分の三は実際に満たされている。　－　それに対して*彼女*は結婚指輪で遊んでいる，その指輪に彼女は柔らかい繊細なハンカチを通した，そのハンカチで彼女は指輪を回転させ，投げている，そしておそらく投げるだろう。結婚指輪は彼女にとって彼女が今朝敬意を表して取った嗅ぎたばこの一つまみである，そしてそれは彼女の好みではないので，最初の機会に密かに浪費するのだ。幾人かの人間はこの愛する人たちのおもちゃの中にもっと深い意味を見出そうとする。そうかもしれない，またそうであり続けるかもしれない。少なくとも私は深い意味の中からおもちゃを作りたくない，彼の表情，なんと魅惑的なことか！いくらか弱弱しいが，柔和である，遊蕩の痕跡があるが，また教養の痕跡もある。しかし*彼女の*表情！　－　－　すべての人間を，いくつかの頭におけるあるいは将来の家の名誉［主婦］におけるそのような彫刻作品［Schnitzwerk］からお守りください！　それは家の*そりの彫刻作品*［Schnitzbild am Haus-Schlitten］としても合格しないだろう。女性がこれよりももっと非女性的に描かれることはできない。もっと醜く描かれることはあるだろう，しかそんなにわずかの線でもってもっと邪悪に，もっとわがままに，強情に，もっと陰険に描かれることはできない。*描かれる*［gezeichnet］と私は言った，人はロンドンの多くの寄宿学校［Kostschule］（boarding school）で数百ポンドシリングを払って自分の娘を教育した［gezogen］

かもしれない, 苦労なしに, ドイツのもっともいんぎんな［galant］家族におけるのと同様に。実際に，このカップルにおけるコントラストはとても遠くまで及ぶ。それは頭や心に及ぶだけではない，その対比は，とりわけ人間が（それはすぐに再び話に至るだろう）四本足で歩行するならば，可能な限り頭と心臓から遠く離れている部分の中にも見出される。私は言いたいのだが，そこ小さな人たちは誰もが別のところに*座っている*あるいは*腰掛けている*。花婿，彼は座席の上に，露の雲の銀の羊毛の上の春の神のように軽く，漂っていないか。花嫁はそれに対して，彼女は完全にそこに一つのいっぱいの*トランク*の蓋を椅子の端でのいくつかの荒い最終－突きによって閉じさせようとする下男の姿勢で座っていないか。あの男はまるで敷物の中の針を恐れているかのように座っている，あるいは座っているように見える，この女はちょうど反対に，まるで彼女がその中に*満たすべき*空所に気づいているかのように座っている。そして世界の中にはそのような座席が存在するのだ。

★ 婦人*服*の描写の際にはまったくフランス語が利用されるので，*婦人自体*の描写の際にも同じことをすることが許されるだろう，とりわけり両者の間の違いがただ小さな事に帰着するので。

だから彼女の右側に男は座っている，その男に彼女は*右*手 auf die rechte Hand で［正式に］結婚することになっている。そして彼女の左側に一人の別の男が，若い筋肉のない結婚役人［Matrimonial-Rat］が立っている，彼は実際に，彼女と同じことを彼個人としては*左*手で［正当ではない仕方で auf die linke］企てようとしている［eine Ehe zur linklen Hand：身分違いの結婚］。キツネは，そのお嬢さん花嫁にとってすべては正当な側でも［auf der Rechten］少し左の方に［怪しげに］見えることに気づいた，そしてそれ故に左手側で［auf der Linklen］小冊子を開いた。*彼が*そのためにペン先をとがらせる小冊子ではなく，*彼女*が耳をとがらせる小冊子を。その若い男は，多くのドイツ人がひょっとしたら黒い上着と襟から推測するような聖職者ではない，そうではなく，*法－商人*［Rechtshändler］である，一種の弁護士と管財人。イギリスではすなわち両方の上級学部がつねに喪に服する［Trauer tragen］，もしそれらが仕事中であるならば，司法と神学が。それに対して，この色が一番よく似合うであろう医学は虹のすべての色を身に着ける，われわれのところのように。彼のひとつの演説のタイトルから，その演説は印刷され，それについてわれわれは下で語ることになるのだが，その演説のタイトルから，彼が *Silvertongue*★，銀の舌［*Silvermund*］という名前であることが知られる。そして実際に彼は，とても銀的なものをささやかねばならないので，このフクロウに魔法をかけとても深く注意深くさせるのである。それによる緊張は彼女の首と背中の全長にわたり感じ取られる，そしてそのすべてはペンの羽を切って作る際に。彼女が，甘やかして育てられた生き物の一番内面的なものから由来するこの注意深さに対して下層民

的な不機嫌のとても粗野な表情を作るということは，私に思われるように，ホガースの一つのとても素晴らしい筆使いである。というのは，それはその婦人を特徴づけているのではない，単なる自然の生き物を特徴づけているのではない，そうではなく，その本来的なあぼずれ女［das eigentliche Mensch］を。罪が誰に落ちようとも。父はひょっとしたら魚の商売で成功したのだろうか。管財人の司法襟のところに私はさらに見て取る，彼はこの飾りをずっと身に着けているのではなく，物語の結末の少し前に司法によって他の飾りを大きな厳粛さのもとで贈られると。

★ silver　銀と tongue　舌から合成されている。翻訳はクリュソストモス［Chrysostomus 340-407　司教　= golden-mouthed］，Goldmund［金－口］に倣って形成されている。

この小さなソファー場面はそこから芸術家が大きな自由をもって全体を発展させる芽を持っている。今徐々に赤熱になり，そして最後に炎になって燃え上がる火花がかすかに光っている，そしてその炎によって全体が崩壊するのである。ホガースはだからとくにそれに注目させ，その中でまだ不明瞭に見えるかもしれないものを彼の記号言語の汲みつくすことのできない宝の中からのいくつかの筆遣いでもって説明する。その若い卿のすぐ前に，地面に，二人の隷属しているもの［Leibeigenen］の物語のソファーの場面が映し出されている，彼らは家族の狩猟の際に配置されている。それは雄と雌の犬である。側面の一つの王冠によって少し貴族に列せられているその雄犬はすでにいくらか年とっていて，いくらか駆り立てられて疲れたようで，いくらか弱弱しい。雌犬は市民的だがすばしこく活発で，眠る気がない，雄犬が眠っているときには一番眠ろうとしない，その雄犬と彼女は首から首へ★の丈夫な鎖でもって婚約して［ver-lobt］いる。その小さな動物はかなり貪欲に何かを求めて見まわしている，おそらく*管財人*を。その雄犬の耳の黒い斑点は*上品 bon-tan* 美容絆創膏ではない。壁際のソファーの上方にホガースは燭台を掛けた。ろうそくを持っているその燭台の二つの腕は互いに巻き付けられている（また一つの婚約）。しかし二つのろうそくはその下の二つの心のように燃えている。あるいはろうそくはもっと多く，そこで管財人が命令している左の翼をさし示しているのか。この方が私にはもっとありそうに思える。両方のろうそくはまだ新しく，火を点けられていないので，そして実際に一つの燭台の腕はまったく横から来ているので，そして*すべてのシンメトリーに反して*主要腕の周りに巻き付いているので。ホガースが右の翼部に注意を喚起しようとしたならば，燃え尽きたろうそくの残片がそこにあっただろう。それらはまだ燃えていない，しかし準備が完了している［fix und fertig］。火を点けるためには夜が欠けているだけだ。そして夜は来るだろう。

★ この鏡場面の*首から首への鎖*からその若い卿と彼の夫人はすでに鎖でつながれていると推論される

だろう。これが正しければ，もちろん夫人の顔の中の不機嫌と卿の表情の中の当惑は一つの最も容易な説明を許す［leiden］だろう。

開けられた窓の前で第二の学部［法学部］からの一人の喪に服している男が立っている。左の翼部の上の男より以上の存在であるように見える。彼が行為することがもっと少ないので，そして彼が実際にすでにイギリスのテミス［Themis　法律正義の女神］の金羊毛皮［イギリスの裁判官の長いかつらのこと］を頭の周囲に巻いて身に着けているので。というのは，すでに食堂の中で脂肪と肉［十分な食事］をもっていない誰もこの毛皮を身に着けていないからだ。彼の左手に彼はその老いた伯爵の宮殿の新しい設計図をもっている，そしてその構想を仕上げと比較している。その際に彼はとても賛美する驚きに陥るので，二重あごと鼻，それらはふだんは彼の顔の中で近い隣人であったのだが，それらと右手の五本の指は分離する。この賛美がまったく見せかけであるというのでないならば，少なくとも次のことは確かである，その賛美は芸術の専門家的なものではなく，ただ司法的なものである。というのは，その建物は嫌悪すべきものであるから。上の柱は下の柱の上に当たっていない，柱の台座［Säulen-Stühle］は丸い，縦みぞを彫られた石材である，地階への窓は三角形である。主要ファサードの隣に暗い馬車物置がある。それは少しの光を丸い穴と円形の部分から受け取るのだが，その円形部分は低いところにあるので，乗り入れの際に御者が離れるか馬車の上部分が取り外されることなしに通過できない。すべてはまったくそのような具合だ。その老紳士の悪趣味，愚かさとばかげた浪費を示すことは，芸術家がその窓を開けたままにした唯一の原因ではなない。お金がないと彼は言いたいのだ，一つの足場があるが，労働者はいない，建築は静止したままだ，まるで時があちこちで足場自体を取り壊し始めたかのように見える。その中庭に群がっているものは建築労働者ではなない，そうではなくその家からの怠け者（余計な召使）あるいは奉公人である。これらの紳士がその建物を見，笑っているのだ。そうしてそのすべてがウィリアム征服王の子孫たちの名誉のために。

これらの版画の解説者がこの部屋の中の絵画蒐集品に向かおうとするとき，彼は，絵の中で半分すでに塵芥の下に，召使の手数料－金庫［Kasse］の下にあるギニー金貨が彼にとって，テーブルの三人の男女間のとり持ち人にとって鳴り響くオリジナルがあったのと同じ状態にあっただろうことに気づく。彼はそれを，まだ暴露されなければならないこの版画の他の宝のためにほとんど忘れるところだった。その過失は今度は有利であった。それ自身が最良の解説を含んでいる，この解説が再び，親切な読者にとって少なくとも最良の弁解［Entschuldigung］を含んでいるように。

周りの壁には，他の多様性にもかかわらずすべて時間的な災いの慈悲深い描写を目的とし

ている絵画が掛かっている。戦争，殺害，責め苦，洪水，ペストそして貴重な時，至る所に大砲と大砲。そしてそのすべてが一つの婚約の部屋の中に。本当にヘンリー四世は彼の婚約の前に占いとしてコーヒーのおりに尋ねた，そしてジプシーが彼にそのような絵の歩廊を見せさせたならば，聖バルテルミ［St.Bartelemie］の有名な結婚［1572 年の夜，パリで旧教徒がユグノー派市民を虐殺した］は確かに成立しなかっただろう。ここでそこから何も悪いものは見られない，それ故にこの血の結婚式はその歩みを邪魔されずに続けるのである。ただ一度だけ眺めよ。

花婿のちょうど上方に，聖ラウレンティウスが彼の花嫁のベッドに，*天火* Brat-Rost の上に引っ張られる［殉教した］。おお！　君はそれを考えることができるか，あわれなロレンツォ Lorenzo よ，そこの下の君の缶をもって［嗅ぎたばこの缶，一人の貧しい老いた善良な乞食僧の Lorenzo が彼に拒絶的な応対をする Yorick に贈る嗅ぎたばこの缶。Sterne の「センチメンタルジャーニー」から］。反対側でカインとアベルが Silbermund 氏に兄弟殺しをしないように警告している。聖 Laurentius の上方でベツレヘム的な九月虐殺に関与した革命家［1792 年フランス革命時に多くの政治犯が処刑された。Septembriseurs］，ヘロデの物語が幼児虐殺を暗示している。そしてこれの反対側に，火を盗んだプロメテウス　－　その肝臓をハゲワシがかじっている　－　の話は良心の不安を暗示している。別の壁では恐ろしいゴリアテ［ダヴィデに殺された巨人］が胴体を丘の東側に，脚を西側において横たわっている，その丘の傾斜面にすぐに彼の頭の岩－塊が転がり落ちるだろう。この下に同様にまた，一つの頭，ホロフェルネス Holofernis［旧約聖書，ユーディットはアッシリアの軍司令官の頭を切り落とす］の頭が彼の忠実なユダヤ女の仕事袋の中に転がり落ちる，そしてこの隣であわれな聖 Sebastian［カトリックの守護聖人］は胸に矢を受ける。だからここには血が十分にあるのだ。血はまた見出されるだろう。歴史との*類似性*もいくらかの解釈 - 熟練とともに見出されるだろう，すべてのものが。ただ*聖人たち*は見出されない。

今われわれは読者に男のための少しの場所を要求しなければならない，その男の絵がそこの壁で四つの殺人物語の空間を占めている。それは家族からの一人の英雄である。うなり声，嵐，雷鳴を，それらを聞きたいと思わなくて見たいと思うものは，この絵の前に現れよ。人々が気象学の最近の進歩にもかかわらず今なおそして正当に雷雲の中に数え入れる一種のかつらをつけたその英雄は戦闘のごった返しの中にいる。彼が彼の軍隊の先頭にいるということは確かである。しかしこの戦闘そのものがどこにあるのか，前方か，後ろかあるいは側面にあるのか，それを画家は新聞物語の仕方に従って明瞭には示さなかった。高慢な表情で勝利の豊かな収穫を見渡している，そして最良の刈り入れ人夫が立っている側の方を一瞥しているところだ。右手は稲妻を慈悲深く，いたわりながら左手に注ぎかけた，そこでその稲妻は

もちろん袖口のブリュッセル風レース［織物］と戯れている。右手は武器なしに鋼鉄製の腰の上にある。40 から 50 エレ［1Elle : 50-80 cm］の衣服が彼の周りから翻る，一組の豊かなケルビム［智天使］－頬から上の方に吹いてくる暴風に向かって。その英雄はだから彼自身の風を持っているのだ。一方外の嵐の一部がその英雄のかつらの主要な*尾*飾りをつかみ，それを恐ろしく上に持ち上げる。その尾の飾りは恐ろしい様子でそこに立っている，そして彼の上に漂っている彗星の尾に抵抗しているように見える。人が，時の記号がどんなに互いに似かよっているかを知らなければ。下では，一つの大砲が英雄のマントの下で発射される，彼のズボンのポケットから射撃されたかのように。彼のポケットピストルはボンバード砲［15－17 世紀の重砲］である，彼の辮髪が彗星の尾であるように。なんと大きなことか！彼の弾丸は芸術家によってある有利な瞬間に実物どおりに ad vivum 複製された。その弾丸がいくらか小さくなってしまったということは，そのような対象が通常，理解されなければならない急ぎのゆえに彼に許されなければならない。その肖像画を金メッキされた大工仕事の豪華枠が囲んでいる，その枠は上でしかめっつら，虎と猿の中間のもので飾りつけられている。だから虎と猿の間の何か，*しかもその上*その絵の枠に★。

★ 周知のようにそのようなことを良く知ることができたヴォルテールは言った，*フランス人はいくらか虎の性格を，そしていくらか猿の性格を持っている*と。　－　ホガースのすべての解釈者は，この絵における風刺はルイ十四世よりはむしろ，しばしばとても誇張されたアットリビュトでもって飾られた彼の肖像画を狙っているという点で一致している。

*天井画*は*海洋画*である。彼の軍隊と一緒のファラオ，彼の軽快二輪馬車が，管財人の上方で，航行可能［flott］になるその瞬間の。それに対をなすものとして*プトレマイオス世界図*が足じゅうたんの上にとてもよく継ぎ合わされている。逆さまの家政のゆえに。本来だから婚約場面の全体は*紅海*の土地の上で行われる，そしてそのようなことはおそらくここで起こることができただろう，もし壁に描かれた血がここで実際に流されたならば，あるいはもっと容易に流れ始めたならば。それを彗星の尾は暗示している。

最後に一つの小さな計算を。その伯爵の紋章はここでは*確か九個*，そしておそらく*十一個*が取り付けられている。一つ*は*豪華天蓋の上に，二*個*が松葉づえのところに，一*個*が太もも［Fußschenkel］のところに，一*個*が市参事会員の椅子のところに，一*個*が壁の燭台のわきの家族メドゥサ［Meduse］の上方に，一*個*が鏡の上方に，一*個*は鏡テーブルの下に，そして一*個*は眠たげな猟犬のわきに。二つのありそうな紋章は，その一つが彼らの椅子の背もたれのところの老伯爵のかつらによって，もう一つが若い子爵の髪袋によって覆い隠されている紋章たちである。一ダースを雌の猟犬のところの第三の*ありそうな*紋章によって完全にする

ことを，われわれの注釈者の名誉は許さない，われわれはかつて，この陽気な動物はただ*市民的*であると信じようと決心したので。系譜図のところにまた容易に*十四個*目の紋章が見出される。それはほとんど偏在のように見える。

オリジナル*版画*の所有者のためにわれわれは述べておく，われわれの複製の中にはやめられた描き直しによって，すべては再び，本来のオリジナル*絵画*と同じであると。管財人は彼の羽ペンを再び右手で切っている。その英雄は彼の剣を左側に持っている，そして老いた伯爵は再び右手を心臓の上に置いている。本来の銅版画を絵画の原初の非常な上品さの中に，元の言語に訳し直すことはここでは完全に価値がないわけではないと思う。どのような男が生まれつきから［von Geburt］断言の時に左手を心臓に置くだろうか　－　彼がそれを誠実に思っているならば，彼はもちろん，世界が最後に彼はそれを誠実に思っていたと言うべきだと要求することはできない。しかし，私には思われるのだが，一人の身分の高い男は，もし彼がだます［betriegt］ならば，世界が彼は尊厳とともにだましたと言うことを要求することができると。

第二の版画

老いた伯爵はすでにへとへとで，ウィリアム征服王のもとにいるように見える。ここに座っている息子氏も息子の妻も特に，死がその八十年間の裁判についに勝ったと感じているように見える。彼らはここで今，訴訟を起こしている，しかし死に対してではなく，臨時に ad interim，少し死の異母兄弟，眠りに対して，そして見られるように，とても同じでない幸福に対して。*彼女*は確かに彼女の訴訟に負けている，そして彼は，彼のもとでは不機嫌が一緒に語っているのだが，彼は確かに彼の訴訟に勝つだろう。彼らは前夜，ほとんどあるいはまったく眠らなかった，彼女は家にいなかった，彼は別の家にいた，ひょっとしたらそこから一イギリスマイル離れて，だからここにいなかった。その物語の経過は次のようである。

ここでは今早朝である，壁の時計が何時を示そうとも。人はここではまだあくびをしている，まだ伸びをしている，まだ朝食をとっている。それが正しいのかそうでないのか，農民の太陽は何も関係がない。それは常にいくらか逆さまである。そこの上に木々の中に魚がいる。ここでは趣味がそうである。その若い紳士，彼は（通りすがりに言えば）夜通しのまったく重い出陣［Campagne。愛の行為の夜］の分だけもっと年老いたのだが，彼はまさに儀装馬車からおろされ，ここに身を投げ出したように見える。おそらく彼はきゃしゃなクレモナのヴァイオリン［Cremoneserimen。イタリアの都市クレモナは 17，18 世紀に有名な Amati と Stradivari ヴァイオリンによって一つの概念だった］のある椅子につまずいた，転

倒し，剣を壊した。その姿は傑作である，異論の余地なくホガースがかつて描いた最良のものの一つである。すべての種類のとても荒々しい放蕩の後の弛緩の真の象徴。彼にあっては何も内的な力によって支えられていない。その姿勢はただ重力の作用によって，操り人形［Gliedermann］反応によって，受動的な椅子の形によってそうなっただけだ。帽子や髪のように，チョッキと長靴下はおさまっている。髪袋はなくなっている，時計はなくなっている，お金はなくなっている。お金がはまっていたところに，今空っぽの手がはまっている，手はお金を探すが，自分のための悲しい支え，長い重い革のように柔らかくろうを塗られたねじれた［geschwärmt］腕のための支え以外に何も見出さない。騒ぎの中で一番苦しまなかったのは耳の下の黒い学部－印章である。視線はどこ向いているのか。*外側に向かって*視線は確かにその道の途上で転倒した時間の後でまだ自由な空気中に漂ったままである。*内側に向かって*視線はこの*家庭的な*朝に異様に低く進む。彼の額の周囲に漂っている頭痛の霧を通してもっと深い心の痛みの痕跡は明白である。そのようにこれらの魚たちには経過しているのだ，ひどく思い上がった跳躍が彼らを彼らの要素から少し遠くまで投げるときには。彼の到着の際に，彼の前進の間，その酒飲みを通常の精神と心の状態を越えて張りつめている酔いはまた逃れ出るときにも，彼を疲れさせてこの状態におく，そうして彼はこの梯子－行程［Leiter-Tour］の上のどの種類の感情素質の際にも通常は何かの新芽を見出すのだ，その新芽から彼は彼の存在全体を苦労なしに見渡すことができる。彼は計算しているように見える，違う，違う！　彼が計算*しようとするな*らば，それが何になるのかを感じることは難しい。これが，われわれがすでに言ったように，その若い紳士の右手を眠りに抵抗して支えている不機嫌である。そのように打ちのめされて彼はそこに横たわっているのだが，彼は獲物なしに戦場から退却したのではない。彼の上着のポケットから繊細なリネンの織物［Limon］と帯の製品がぶら下がっている，そのようなものはほとんど，そして決して何かの大きな革命なしには男のポケットには入ってこない。ここでボローニア犬の敏感さを持った婦人の愛玩犬によって発見され，平和を愛する慎重さとともにクンクンと嗅がれるのは，一つの小さな香水を振りかけられた頭の被り物である。だからほとんど単なる髪袋のための保証する*担保にもならない*であろうものはおそらくその上なお，財布と時計のための*代用品*である！　ここでその子犬が鋭い勘をもっている，前夜の若い紳士の行動についてはそれくらいに。　－そして今はその若い婦人の行動について一言。その行動を若い紳士は嗅ぎつけているのだが。彼女は素晴らしいエジプト風の広間で夜通し，遊戯の集まり［Spielgesellschaft］とカードと若い紳士たちやそのようなものとのゲーム，少しお茶，少し演奏会そして少しダンスを持った。人々は長く荒々しく遊んだ。ろうそくは燃えれば低くなり，そう言われるように，昼間の光を焦がす［verbrennen］。その日は冬の日であるにもかかわらず。テーブルの一つはカー

ドを地面に投げた，ホイスト［トランプ遊び］の*法典*［Pandekt］，*Hoyle on Whist*★［The short Treatise on the Game of Whist 1743 年ロンドン，Edmond Hoyle 1672－1769］が足で踏みつけられた，そしてひょっとしてまた椅子がその貴重な木工品，ヴァイオリンとともにこの薄暗い片隅の中の混乱によって倒れた。というのは，石炭ストーブの薄明るい光とシャンデリアの遠くの光を除いて，ここにはおそらく意図的に，特別な照明がないからだ。時計のもとの二つのろうそくは少なくとも燃えなかった。私に思われるように，素晴らしい筆遣い！各々の壁の燭台の上のいくつかの燃えていないろうそくはすべに十分に，ここでは照明がどんなに気にかけられていないかを証明した。しかしその上，時計用のろうそく［Uhrlichter。目盛りが記されていて，時の経過を示す］があるということはこれをまた*時*のために証言している。実際にはしかし薄明りと同様に闇の作品のための本来的な時は正当にすべての時計なしに見出されることができる，あるいは本来の時を利用しようとすれば，少なくともそれは，人が時計の針も時計も見ないときであろう。

★ ホイストゲームについて Hoyle。この本はイギリスの文学史において注目された。ミルトンの生の中で，詩人が彼の*失われた*楽園のために 10 ギニーを，Hoyle が彼の*再び見出された*楽園のために二百ギニーを出版社から受け取ったことがコメントされる。

その若い婦人はだからもちろんとても，とても疲れている，彼女はこれを，実際には貴族的なものがあまりないいくつかの仕方で示している。もし貴族的なものがあるならば，それは少なくともとても，とても*なりたてのもの*だ。彼女は体を少し伸ばしている，あるいはいくつかの地方で言われるように，夫を角の記号［Hörner-Zeichen］で脅している。彼女は確かに健康である，ひょっとしたら健康でありすぎる。眠たげな視線でさえも力がないわけではない，そして姿勢全体のように，彼女の哀れな燃え尽きた男がそんなに不足に苦しんでいるものの過剰をひそかに表している。彼女は椅子の上で少し眠ってしまったように見える，そして彼女は，彼女と彼女の愛しい人との会話が，それが始まった時と同じのくらいの活発さで継続されるならば，おそらく再び眠るだろう。　－　彼女の手の中の空の小さな缶，あるいは空の容器が何を意味しているか，容易には言えない。蓋のある小鏡であるならば，その事柄は，とりわけ彼女の名誉のために，難しさを持たないだろう。彼女はつまり，目覚める際に，直ちに最初の義務の一つ，私は自己検査の義務のことを言っているのだが，それを実行しただろう，そしてその小さな顔がこの朝の祝福に合格したことは，その後すぐに続く静かに体を伸ばすことから明らかになった。

彼女は自分の前に朝食を持っている。それは，見られるように，そしてそのような結婚生活の夜の後で異なったようではありえないように，*一人用*である。　－　おお，その貴婦人

も一夫一婦制的であるならば！　彼女に，ひょっとしたらすぐにそのような男のもとでは，前夜のようなもう一つの夜を許せ。しかしながらそのような*スカートの襞*，もはや結婚の日のように折れようとしないそのようなスカートの襞のもとで，そして残念ながら，ウィリアム征服王の芽のゆえにもはやそのように折れることができないスカートの襞のもとで。　－　そのスカートの襞で，早朝まで，カード，ヴァイオリン，［カードの］法典の上を元気に走る回ること，マダム，それは，それが流行に倣ったことであれ，本当に美しくはありません。

*彼*はちょうど朝食を終えたばかりだ。それは惨めな味がしたに違いない。というのは，朝食を持ってきた老いた執事はそれをまったく食べられていないまま運び去るからだ。それはこの朝に返済されるべき一束の勘定から成っていた。しかしただひとつの勘定が返済されているだけだ，そしてこれはすでに六月4日★のものだ。ここでは明らかに冬であるのだが。返済された勘定は執事のファイル［Sammeldraht］に署名と一緒にぶら下がっている。それはもちろん過酷な食べ物［Kost］だった。しかしそれはゼンメル［Semmelscnittchen 小型の白パン］にすぎなかった，彼が腕の下に持っているライムギの黒パン［Pumpernickel］，つまり*台帳*［*Hausbuch*］（*Ledger*）に対しては。その台帳は一度もほとんど匂いも嗅がれなかっただろう［riechen　開かれなかった］！　－　その執事の頭についてそして彼の手の身振りの意味と視線の意味についてまだ*文章語*［*Schriftsprache*］でもって注釈しようとすることはおそらく許されない濫用だろう。そのような濫用は表音文字についてなされることができるのだ。*そのために*世界の中の活字［Letter］は鋳造されていない。その二つの大きな分野に従ってのとても繊細な注釈作り［Notenmacherei］は，そのようなテクストにおいては害になるに違いないだろう。人々が*理解する*ようにあふれ出る注釈作りと同様に，人々が*理解しない*ように無限にもっと学問的な注釈作りも。*見よ，閣下の財政はそのような状態である*と私が言うならば，そしてこの家の*聖人*を指し示すならば，おそらく誰かが尋ねるだろう，いったい閣下の財政はどのような状態なのかと。確かに誰も尋ねないだろう。少なくとも，セントヴィンセント岬［ポルトガル南西端］とノヴァヤセムリャ［Nova Zembla ロシア北西岸沖］の間では誰も。逆にひょっとしたらこの頭はまだ説明することを*助ける*だろう，そしてわれわれは確信とともに読者の許しを当てにするだろう。例えば今後，一つの説明の代わりに*執事を参照せよ*［*videatur*］以外に何も言われないにしても。

★ アイルランド氏が読んだように，一月四日ではない。

この顔の*意味*が言葉を必要としないにも関わらず，その顔の物語はいくつかの言葉を必要とする。その顔は肖像画である，とりわけ言われているように，Edward Swallow という人，カンタベリーの当時の大司教の老いた正直な献酌侍従の肖像。この執事の個所に人る頭を探

していたホガースは長い間この頭をそれの正直な素朴さのゆえにもつことを願った。最後に大司教の友人が彼をランベス Lambeth★に連れて行った，そこで彼は彼を気づかれずにスケッチした，そして馬車に乗る際に彼は同伴者にささやいた。*Now I have him　今私は彼を持っている*。すり減った靴，古風な上着と強い髪はその男がこの世界の人ではないこと，そのような家のイギリスの従者たちの九割［Zehnteile］が出身であるそのような世界の人ではまったくないことを示している。彼はメソジスト派の人であるように見える，少なくともホガースは，ひょっとしたら気まぐれから，彼から一人のメソジストを作った。すなわち彼のポケットから再生（*on regeneration*）の本がのぞいている，そして知られているように，*再生*という言葉はこの聖職者的な団体の普遍のスローガンである。またそれについての会話は彼らの団体の多くにとって敬虔な気晴らし，一種の聖職者的なホイストであるかもしれない。そうしてもちろん Hoyle や *Whitefield*★★［George Whitefield 1714–1770, 野外での説教をした］もとてもよく一緒になるだろう　－　そのように一つの側面は友人たちをつなぎ合わせる pagina jungit amicos　－　しかし一人の狡猾な詐欺師　－　アイルランド氏は彼をそうしているのだが　－　と私は彼をみなすことはできない。ここにホガースは必要な容貌［Physiognomie］をもっと近くに持つことができただろう，というのは，私の完全な確信によればカンタベリーの大司教の老いたそれ故に定評のある召使い，最後の人間階級はイギリスばかりか，一人の画家が悪党の容貌を探さねばならない世界の中にいるのだろう。

★ カンタベリーの大司教の居所。

★★ 評判の良くない，メソジスト派の聖職者，私が間違っていなければ，この宗派の創立者。

伯爵的なバッコスの女祭司の寺院の後ろに，われわれが注意を喚起したように，ろうそくが昼を焼いているところに，課題を終えた一つのろうそくはある椅子の背もたれの裏側をつかもうとしているように見える。それは本当にもう燃えている。その事柄は危険になるかもしれない，しかし幸いにも一つの別の椅子の背もたれ　－　そのうえで一人の召使が即座にうたた寝をしたのだが　－　がこれに気づく，そして今にもその騎手を振り落としそうである，そうして姉妹はおそらくまだ救われるのだ。その若い人間は自分を元気づけるために，頭と心臓をこすりひっかいている，そして可能なことすべてをするように見える，定員外の臨時手伝い召使［Beiläufer-Supernumerarius］のために。というのは，彼はそのようなものであるから。本来的な飾りひもを付けられた省［Ministerium　人工的ば拡大］は眠っている。広間の絵画は婚約の部屋のそれほど破損していないし安いものでもない，それらはむしろ静かな冷血な教化を狙っている。それは主に光輪をもった四人の聖人である。なるほど第四番目の聖人の光輪はろうそくの煙の前で見えないが，その存在は仲間たちとそれらの完全に同

じ枠から推測されることができる。アイルランド氏はこれらの人を四人の福音書著者とみなしている。彼らはおそらくそれてではない。これらの四人の真ん中の人は明らかに彼の名前の十字架を持った聖 Andreas［使徒，ペテロの兄弟］である，彼の右に掛かっている人物，一人の聖女は足つきグラスを持ったマドンナである。そして第四の男は手に剣をもっている。福音書著者に剣は何を意味するだろうか。拳の中に剣をもって福音書は書かれない，それでもって人々に説明がなされるのだ，そしてそれはもっと新しい発明である。すべての人たちの中で最も神聖な人物はカーテンがただ裸の足だけを見させている人物であるように見える。残念だ！　若い紳士たちがまだそこにいたときもっと早く来たならば，われわれはすべてを見ることができただろう。　おお！　マダム！　マダム！

われわれの芸術家が広間の絵画の中のだらしのない対比によってその若い夫婦の道徳の原則を暗示したように，彼はわれわれに今，控えの間の装飾の中に彼らの趣味の原則を示している。これはとりわけこの版画の中では見落とされてはならない一つの点である。また容易に見落とされることができない点だ。ホガースはつまり大きな自由でもって，彼が行く至るところで，造形芸術における美に対する感情の完全な不足を明らかにしようと試みた。その不足はこの二つの家族の中で，とりわけ伯爵家の中に支配しているものである。彼がそれでもって以下のこととは異なったことを言おうとしたということは不可能である，つまり，所有者の趣味が若者の中にもっと多く形成されていたならば，この家はもっと良い状態であるだろうと。そしてまた，少なくとも粗いお高くとまった［groberhaben］不作法な言動が，個々の家族の不幸を，そしてそれが大人の男になる後には，国々全部の不幸を決定する不作法な言動が一般的には美に対する感情の大きな不足　－　娘に対する感情の不足は除いて　－を大きな財産あるいは大きな権力と結び付ける人々から由来しているということは否定できない。

ここで暖炉のマントルピースは北東アジアの幼稚な芸術作品で覆われている。臨月に近い中国の［schinesisch］偶像が裸でそこに座っている，スカートの襞が間違って折れないように。他の偶像は手を直接，肩のところに持っていて，角［つの］の印を作ろうとしているが，できない。手すり支柱のような花瓶とコルク栓のような小瓶がここでは人工的な博物標本と交代する，時おり偶然が作るような芸術物［Kunstsache］と交代する。一番いいものは古代の胸像である。その頭部がないこと，鼻が頭部よりももっと新しいことは残念である。彼は Faustina［Anna Galeria Faustina，1251 年死，ローマ皇帝 Antonius Pius の妻，その自堕落な生によって有名］のために買ったように見える。ところでこのくだらないもののもとには驚嘆すべきシンメトリーととても良心的な秩序が支配している。どの小瓶もその対になる小瓶を持っている，どの醜い顔も対になる醜い顔を持っている。家の中には規則的なしみがある

ように見える。この屋根の下でも秩序を持つことができるということが分かる，それは苦労に値する。　－　暖炉の絵は，同様にみじめな状態であった，あるいは少なくとも今みじめな状態であるアモルを表している。彼の寺院は崩壊した，彼の弓は弦を持っていない，彼の矢筒は矢を持っていない。彼にはバッグパイプと一つのパイプしか残っていない。そのパイプで彼はいま単調な悲歌［Lamento］を演奏しているのである。

そこの上の時計が木々の中の魚たちと魚たちの下の猫とともに軽蔑すべきように見えても，その時計がこの部屋の中の最大の芸術作品であるばかりか，その上，時計作りの最大の傑作であるということはありうるだろう。私はつまり，無為にそこに座っているようには全然見えない猫の厳粛な姿勢からこの時計は*猫時計*であると推測できると思うのだ，時間を叫ぶカッコウ時計を持つように，時間を*にゃお* ***mauen*** と，あるいは*みぃあ* ***miauen*** *と*告げる猫尾計。その上で美しく作られた犬が時間を*吠える*時計は，私に一人の友人が書いてくるように，最近一人のイギリス人によって高い価格で売りに出されたそうである。このことはこの推測を少なからず強める。しかしながら Squanderfield 卿の時計はこれをはるかに凌駕している，とりわけ毎十五分変えられた声によって，あるいは若い猫によってにゃおと言われたと仮定するならば。私が聞いているように，Le Droz［Henri-Louis-Jacquet Drotz 1721-1790 スイスの機械工］の一人の弟子が，野生の豚が時間を短い間隔でブーブー*鳴く*時計を作ることに取り組んでいるそうだ。おそらく彼にベルリンの指揮者 Pepusch［Johann Christoph Pepusch 1667-1752］の有名な豚コンサートがその考えを与えたのだろう，そこでは豚の声がファゴット，***Porco Primo***［*第一の豚*］，***Porco secondo***［*第二の豚*］*など*で吹かれ，とても大きな喝采を博したのだ。この仕方でだから 18 世紀はわれわれにそんなに多くの新しいものの中でまた時計の一つの動物園を贈ったのだ，それらの時計のもとではわれわれの弔いの鐘の永遠の死を思え Memento - Mori 打音のもとよりも本当に将来もっと愉快に眠ることができるだろう。後者は本来教会に属しているのだ。　－　二匹の魚は私にはまるでそれらが，時計と結びついている一つの波にささっているように見える。それらが時間ごとに鯉の跳躍（***saut de la carpe***）をしないかどうか誰が知ろうか。その考えは感じがいいだろう，そしてまた，自然の中では容易に見られないものが生け垣の中で起こるので，奇妙であろう。

第三の版画

オクスフォード卿★は彼の Anecdotes of Painting in England の第四部，われわれの芸術家が話題になっている第四部の中で，その芸術家について言う，彼は彼の作品の中で主要な事柄に関して，*常に*わかりやすいと。これが彼の版画の大部分について本当であるにしても，それは今のこの版画については妥当しない。人はいま，私が間違っていなければ，この場面の*五*つの異なった解説を持っている。この状況だけでもすでにこの版画のわかりにくさのための十分な証言だろう。一方で，アイルランド氏が同じ意図で挙げている一つの逸話はとても注目 すべきもので，ここで見過ごされることはできない。有名な詩人の Churchill がかつてこの版画の意味について問われたときに，彼は告白した，「その意味は彼にとても変りやすいものに見えたので，彼はある日芸術家自身に説明を頼んだ，彼はしかし，多くの他の注釈者のように，その事柄をそれがあったのと同じようにあいまいなままにしておいた。そして私はだから，と詩人は続けた，確信した，ホガースは彼の物語をただ Benjamin Hoadley［1676-1761 イギリスのリベラル神学者］，David Garrick［1717-79　俳優，劇作家］，James Townley［1714-1778　イギリスの教育学者，劇作家］，あるいは他の彼の友人の考えに従って形成した，そして彼が言おうとするものを自分でも正しく理解しなかったと」。ここに憤慨した皮肉屋が認識される。アイルランド氏はまた明瞭に述べる，Churchill がそのように述べたとき，彼とホガースの間の不幸な不和が始まっていたと★★。誠実な男に，彼が哲学的な憂鬱の発作の中であるいは詩的な熱狂の発作の中でとりわけ見本市の前に，彼自身が見本市が終わるときにもはや理解しないことを書くということが起こった。それは天才の稲妻である，そして稲妻は狙わない。天才の稲妻は，普通の雷雨のそれのように，とりわけ冷たい落雷はいかなる痕跡も残さない，それらが由来する要素の中にも，それらが入っていく要素の中にも。しかしながら造形芸術のそのような作品は*急襲 coup de main* によって画布の上に光を当てられない。どの細部［Zug］も，それがなされる前に，目指され，証明されなければならない，そして後に何日かあるいは何週間も目指され，証明されなければならない，そしてその時，包囲する人［Belagerer］自身が，彼が制服しようとする作品を見ないならば，本当にそれは尋常ではない［どこか間違っている，ただ事ではない］に違いないだろう。ホガースはそれを確かにとても明瞭に見た。われわれは今，彼の多様な大砲の本来的な方向とそれ故に主要点の位置をいくつかのゆっくりと収斂する線によって暗示することができるかどうか試みたい。分割点［Verteilungspunkt］までわれわれはこの線を引かないだろう，そのためにはわれわれの紙は小さすぎる。われわれはだから親切な読者に，ここにあるようなそれらの線を一つのいくらか大きな机の上に適用し，それから自分の家－定規をそれらの線

に当てがうことを頼みたい，そうして他のすべてはおのずと与えられるだろう。われわれは問題の解決を単に定規を当てること［Lineal-Anschlag］に還元［Reduktion］することによって説明を短くすることができると私は思う。

★ 第一分冊の前書きを見よ。

★★ この不和はすべての仕方で不幸と呼ばれるに値する，というのは，ホガースの死はそれによって速められたからだ。評判の良くない John Wilkes［1727-97　英国の政治改革者］，その親友の Churchill と彼は良い友人だった，ホガースが政治に口出しし，彼の鑿で彼の友人たちの政党を攻撃するという思い付きを持つまで。それが彼の他の作品の中で支配している機知と精神とともに起こったならば，彼は政党にとても危険になることがありえただろう。しかし彼の銅版画，*時代 die Zeiten* は一つのひどく凡庸なアレゴリーである。Wilkes はそれ故に彼の *North-Britons* のある紙面（17 号）の中で彼に襲いかかった，そしてホガースが彼の敵の戯画を発表したとき，彼は Churchill から有名な *Epistle to Hogarth* を受け取った。彼は今この友人を銅版画に彫った，黒ビールのジョッキと一つの足つきグラスをもった熊の姿で。しかしこのすべては，彼に打ち付けられた傷をいやさなかった。彼の敵たちはここで彼よりも勝っていた。そして彼の機知は今度は大衆の声を自分に反対してもっていた，Churchill の風刺がこの詩人の最良のものではないにもかかわらず。オクスフォード卿はこの戦闘について卓越して判断した，彼は言う，never did two angry men of their abilities throw mud with less dexterity。まだ誰も二人のそんなに能力のある男たちをお互いに怒りの中でもっと不器用な仕方で汚しはしなかった。

その若い伯爵が完全に健康であるわけではなかった，ふだんとてもきちんとしているわけでもなかったということはすでに何度かかなり大きな声で話された。それはすべて単なるうわさだった。左の耳の下の絆創膏やポケットの中の木綿［リモン Limon］と帯などについては話された。ここでしかしわれわれは今，信頼できる公的な知らせを受けとる，すべては実際にそのような状態であったと，そしていわば，伯爵自身の口から。　－　彼はここで *Monsieur de la Pillule*★［Pille〈丸薬〉から作られた名前］，フランス人医師の救急 Sanität 部屋の中にいる。その医師は，特にすべての国の言語慣用がその医師の同郷の女の人［Landsmännin］に対して作っている種類の病気［梅毒のこと］と取り組んでいる。その病気はおそらく彼によってまた同郷の女のようなこの平面の上で［auf diesen Fuß］　採算の取れる慎重さと思いやりとともに取り扱われる。彼の名前は，そこに右に開かれている彼の豪華な作品の一部からわかる，そして彼の診療の幸運は，通り全体を数珠つなぎにしているアーチ形の窓を持ったエレガントな部屋の状態から，そして壁の石ばかりでなく，自然と芸術のすべての王国が叫んでいることからわかる。おそらくこれはまた薬局調剤室なのだろう。そこでわれわれの主人公は耳の下にスタンプを押されたのだ［絆創膏のこと］。彼は，彼の左に立っている哀れな*未熟な*生き物とムシュー　de la Pillule のところに到着したばかりだ。

その医師のところに彼は右の熟しすぎた魔女を同様に雇ったか，あるいは今同時に一緒に連れてきた。ここで争いが始まる，その原因は次のようだ。卿はその小さな生き物を老人たちの教育施設から，*家の外での*家政のために，ある不定の期間，高い価格で連れの女として借りた。そのためにその修道院の女子修道院長は彼女の生徒の中に*未熟な若さ，純潔，あらゆる種類のフランス語流の言い回しをまったく知らないこと*，それ故に完全な安全を保障した。最後の状態は家の中の家政のゆえにとても必要だった，そして実際に人々はその未熟さを，特に主に流行から，しかしある部分はまたもっと大きな安全性のゆえに，明白に義務付けたのだ。ここでいま伯爵氏は残念ながら！　ひどく惨めな状態で，とてもとても*通例よりももっと多く* ***ultra dimidium*** 傷つけられている。彼はおそらくきっと正しい，その老婆はすべての否定にもかかわらず同時に折り畳み式ナイフを彼女の施設を冒涜する者に対して引き出しているので。実際彼はまたちょうど一つの議論を述べるところである，その議論に対して買春仲介の女の饒舌は何もすることができない。この若い本当に純粋な生き物は彼に自分で告白した，彼女は医師殿の錠剤を今まで使用し，今も使用していると。だから在庫品全体がここに法廷の前に引っ張り出されたのだ。手の中の一つの缶を卿は開けた，それをひょっとしたら娘に保証したやぶ医者に見せた，おそらく次の言葉とともに。卿は見る，ムシュー，*それは私がすでに百度も取った錠剤ではないのか*。彼はそれをまた女子修道院長にも指摘できるだろう。*それはあなたがあなたの尼僧たちにこっそり与える胸ひな鳥絆創膏*［***Brust-küchelchen***］*ではないか*。私はこれはその謎の最も単純な解決であると思う，その解決は同時に，その哀れな戦いの犠牲者の表情を説明しているので。その表情の中には明らかに，裏切りによる老婆と修道院懲罰に対する恐れが支配している。その錠剤の在庫品は小さくはなかった，というのは，一つの缶をその子供はまだ手の中に持っている，それが開けられた缶のふたでないならば。そして一つの缶が卿の前に椅子の上にある，その椅子の前でそれは確かに落ちるだろう，まさに今，伯爵の太ももが互いに作っている角度の中でその缶のために適切な場所が示されないならば。卿が哀れな生き物の故に，彼女と自分を等しくするために，座っていて，その娘を自分の脚の間においていることはわれわれの芸術家の美しい奇妙な筆遣いである。彼は，その小さなものが下劣なものの眼の中でどんなに重要ではなく，子供っぽく，困窮して見えるかを示す。確かにこの姿勢は無垢の誠実な擁護者，あるいは報復者にすでに観客の愛を確保した。ここでその姿勢はまだ吐き気をもよおさせる獣のような好色漢への観客の嫌悪を増加させる。実際にぽかんといっぱつ殴るために藤の杖［むち］は上げられていない，それはただ少し振られる，顔の皮肉な愛想の良さと言葉の軽すぎる嘲笑にふさわしい棍棒のような連帯性を与えるために。その連帯性によってのみ人はこのような社会に自分を理解させることができるのだ。ナイフを持った女子修道院長の責任は特別な結果を持

つ必要はない。人々はそれについてそれ以上に何も聞かない。おそらく de la Pillule 氏は仲裁の労を取ったのだ，彼の国と同様に彼の身分の雄弁さでもって。それを彼はまたよくできたのだ。彼の錠剤のような錠剤への*主要添加物*は昔から*雄弁な*金メッキである。だから私と非－私の間に多くの難しい平和を結んできた彼にとって，その際にこの金メッキはすでに*主要添加物*であったが，その彼にとって，杖と折り畳み式ナイフの間のそれのような容易な平和をただ金メッキの手段によって結ぶことが困難であることはありえなかった。

★ 今は la Pillule である。

［以下次号］

訳者による付記

本稿は，Georg Christoph Lichtenbergs ausführliche Erklärung der Hogarthischen Kupferstiche. Drirre Lidferung und vierte Lieferung. In : Gerog Christoph Lichtenberg Schriften und Briefe. Herausgegeben von Wolfgang Promies III.（Zweitausendeins Verlag. Kommentar zu Band III 1961）の翻訳である（第三分冊　4. と第四分冊　1. 第四分冊は 1798 年に出版され，ホガースの銅版画シリーズ Marriage a la mode を解説している。リヒテンベルクの主著　Sudelbücher の第二巻が出版された。『リヒテンベルクの手帖』第二巻　鳥影社。第二巻の「日記」にはイギリス滞在，「ホガーズ銅版画解説」執筆時の生活が記録されている。

（よしもち　せんじ　東北学院大学　名誉教授）